

◀ 2004 文化功労者認定    ◀ 1994 クラック日本美術技術センター    ◀ 1985 東京国際女性映画祭    ◀ 1974 エキブ・ド・シネマ発足    ◀ 1968 岩波ホールの船出    ◀ 1958 IDHEC 時代    ◀ 1929 高野悦子生誕

 <p>2013年6月3日 高野悦子お別れの会、帝国ホテル孔雀の間にて</p>	 <p>2007年10月 第20回東京国際女性映画祭</p>  <p>2004年11月 文化功労者顕彰式</p>	 <p>1994年11月 完成したクラック日本美術技術センターを背景に</p>	 <p>1984年 世田谷美術館の庭園にて 来日したウスマン・センベヌ監督(中)と、セネガルの民族衣装の高野悦子(右)と大竹洋子(左)</p>  <p>1987年11月 アンジェイ・ワイダ監督 第四回京都賞受賞</p>	 <p>1981年11月6日 第29回菊池寛賞受賞時の川喜多かしこ氏と高野悦子、ホテル・オークラにて</p>  <p>1982年5月 「恋の浮島」がカンヌ映画祭で正式出品された際の上映会</p>	 <p>1974年2月 エキブ・ド・シネマ発足時、川喜多かしこ氏と高野悦子</p>	 <p>1968年 岩波神保町ビル全景(設立当時)</p>	 <p>旧満洲大連当時の風景</p>	 <p>1934年7月 大連の高野家にて 左より芽野司氏、悦子、父高野興作、次女光子、母柳、長女淳子、中谷宇吉郎氏</p>								
<p>2013年2月9日</p>	<p>2012年10月11日</p>	<p>2011年2月11日</p>	<p>2010年10月20日</p>	<p>2009年3月19日</p>	<p>2008年3月9日</p>	<p>2007年12月19日</p>	<p>2006年4月11日</p>	<p>2005年3月4日</p>	<p>2004年3月3日</p>	<p>2003年10月19日</p>	<p>2002年2月19日</p>	<p>2001年2月6日</p>	<p>2000年3月19日</p>	<p>1999年3月4日</p>	<p>1998年8月19日</p>	<p>1997年5月29日</p>

2010

ポルトガル功労勲章受章  
東京国際女性映画祭に第6回平塚らいてう賞  
文京区名誉区民に認定  
岩波第25回東京国際女性映画祭フィナーレ  
第57回「映画の日」特別功労章受章  
岩波ホール創立45周年の日に永眠、享年83  
メセナアワード2013 映画の地球儀賞受賞  
没後、正四位旭日重光章を追叙追贈

2000

最後のポーランド訪問「ポーランド・日本・韓国親善の夕べ」に出演  
第18回川喜多賞受賞、ハイビジョン・アワード2000郵政大臣賞受賞  
フランス・国家功労賞シュヴァリエ受賞  
キューバ・友好メダル授与、勲三等瑞宝章受賞、高野悦子と岩波ホールに第12回日中学院倉石賞  
全国日本学士会・アカデミア賞受賞  
第53回NHK放送文化賞受賞、ソロプチミスト日本財団・千嘉代子賞受賞  
文化功労者に認定  
文京区民栄誉賞受賞  
高野悦子、東京国際女性映画祭に日本映画バンククラブ賞  
社団法人日本ポルトガル協会会長に就任

1990

第15回経済界大賞フラワー賞受賞、日中友好21世紀委員(総理大臣諮問機関)フランス・芸術文化勲章受章、「東欧映画祭」で実行委員長を務める  
富山県功労者に認定  
「クラック日本美術技術センター」募金活動目標達成  
岩波ホールに国際交流基金国際交流奨励賞  
ポルトガル・功労勲章コマンドリー受章  
岩波ホールに1994スポニチ・グランプリ、第2回文化芸術大賞優秀賞  
1994エイボン女性年度賞女性大賞受賞、第18回山路ふみ子賞文化賞受賞  
「クラック日本美術技術センター」完成  
大同生命地域研究特別賞受賞  
日本ユネスコ国内委員(2000年11月)  
第12回東京都文化賞受賞  
第14回新川地域発展賞特別賞受賞  
国立フィルムセンター初代名誉館長を務める(2007年8月)  
高野悦子、岩波ホールスタッフ一同に第15回日本映画復興特別賞  
岩波ホールに第8回日本生活文化大賞生活文化賞  
彩の国さいたま国際映画祭をプロデュース(2000年3月)

1980

「岩波シネサロン」新設、「世界名画シリーズ」研究上映会スタート(1982)  
「映画の日」特別功労章受章  
岩波ホールのエキブ運動が、キネマ旬報19年映画界十大ニュースに選出  
第22回ブルーリボン特別賞、ヴェネチア国際映画祭に参加  
川喜多かして、高野悦子とともに第10回森田たまパイオニア賞受賞、第29回菊池寛賞受賞  
初の日本・ポルトガル合作映画「恋の浮島」(パウロ・ロシヤ監督)でプロデューサーを務める  
高野悦子、岩波ホールスタッフ一同に映画鑑賞団体全国連絡会議特別賞  
ポルトガル・エンリク航海王子勲章騎士団章受章  
東京国立近代美術館フィルムセンターの火災で、「フィルムセンター」消失フィルムのための募金(映画週間)の設立  
「フィルムセンター」消失フィルムを務める(2012)  
ジェネラルプロデューサーを務める  
アンジェイ・ワイダ監督が受賞した京都賞(1978)の賞金の寄付から、「クラック日本美術技術センター」建設募金を設立。事務局長に就任  
銀花賞受賞、芸術選奨文部大臣賞・評論部門受賞、外務大臣表彰授与

1970

ポルトガル・エンリク航海王子勲章タメノ章受章  
岩波ホールで「講座・戦後日本映画史」スタート  
日本映画テレビプロデューサー協会特別賞受賞  
川喜多かして氏とともに「エキブ・ド・シネマ」発足  
岩波ホールを根拠地に世界の埋もれた名画の発掘・上映に尽力  
エキブ・ド・シネマが日本映画バンククラブ賞受賞  
カンヌ国際映画祭に参加  
日本ポルトガル教会会長賞、イタリア・アカデミア・テイペリナ永久会員に認定

1960

卒業論文「日本に於ける無声映画時代の芸術映画発達史」を執筆、パリ高等映画学院卒業  
川喜多かして氏による日本アート・シアター・ギルド(ATG)創立  
帰国後、衣笠貞之助監督の助手を務め、テレビドラマの脚本、演出を手がける  
岩波ホール創立と同時に総支配人に就任  
社団法人日本ポルトガル協会設立に参加、常任理事(文化担当)に就任

1950

日本女子大学社会福祉学科卒業  
東宝株式会社製作本部文芸部に入社し、高野のために新設された製作企画調査のセクションで働く  
監督をめざし撮影所への異動を申し出るがかなえられず、1958年に退職  
パリ高等映画学院IDHEC(現FEMIS)監督科に入学

1900-

父・高野興作(南満洲鉄道株式会社技師)、母・柳(元金沢女子師範教師)の三女として、旧満洲(現中国東北部)大石橋に生まれる  
父の故郷富山県下新川郡山田村(現黒部市)に帰国  
富山県立魚津高等学校卒業  
日本女子大学入学。社会福祉学科で社会心理学者南博教授のもと「マス・メディアとしての映画」をテーマに与えられ、映画の調査、分析をするうちに映画に魅せられる